

## 桐生市議会 経済建設常任委員会 行政視察報告書

視察都市	群馬県 高崎市
視察日時	令和 4 年 10 月 31 日 (月) 10 時 30 分 ～ 12 時 00 分
訪問先	群馬県立観音山ファミリーパーク 〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町 1064-30 Tel. 027-328-8389
参加者	園田基博 飯島英規 周藤雅彦 北川久人 石渡宏明
視察項目	観音山ファミリーパークにおける Park-PFI 事業について

### ■ 視察内容:

#### ◎ 面談者:

県土整備部 都市計画課: 鹿沼係長、金井主任

高崎土木事務所: 小野所長、高澤主幹、小山主任、後藤氏

指定管理者: 吉田園長、加部副園長

HYGGE TIMES: 宮下宏巳社長、栗原昌一一級建築士

#### ◎ 観音山ファミリーパークの概要:

平成 15 年 (2003 年) にオープンした約 60.3ha の広域公園。東京ドーム 13 ヶ分に相当する。育児の応援パークとして「豊かな自然の中での楽しい子育て」をうたい、サッカーコート 3 面分の「森の芝生広場」、ふわふわドームや噴水広場の水遊びなどが楽しめる「水と花の広場」、全長 62m のローラーすべり台が名物の「癒しのエリア」、などを有する。桜・新緑・紅葉など、観音山丘陵に広がる美しい四季の景色も魅力のひとつ。



↑ 観音山ファミリーパーク入口



↑ 出迎えて下さった職員方々



↑ 園内ところどころに紅葉が

◎ Park-PFI について:

自治体が管理する公園内に民間事業者が飲食店や売店、アトラクションなどの収益施設を設置・運営し、その収益の一部で公園設備の整備・改修を進めるという制度。(平成 29 年 6 月の都市公園法改正において創設、県はこの制度によって 2019 年度に前橋市の県立敷島公園にスターバックスをオープンさせている。)

この公募設置管理制度 (Park-PFI) を活用し、観音山ファミリーパークに憩いのスペースが令和 3 年 1 月 9 日 (土) にオープンされた。選定された事業者は、株式会社ヒロミヤ住建 (山名町・宮下宏巳代表)、公園北東の多目的広場の園路にカフェ休憩スペース「HYGGE TIMES」(ヒュッグ・タイムズ) を展開。事業期間は 20 年間。(※HYGGE: デンマーク語で仲間や家族と触れ合う居心地のいい時間と場所)



↑ 森のスポ・レク広場から多目的広場に向かう途中にオープン



↑ オープン時チラシ

【質疑応答】

Q Park-PFI を導入した経緯について。公募業者に対する選定基準や、選考判断はどのように行ったのか?

A 毎年実施している公園利用者アンケート等の結果よりカフェ等のニーズが多くあったことから、民間の経営能力やノウハウなどを活用して公園の利便性向上を図る為、Park-PFI 制度を導入した。公募に応じたのは 1 社のみ。初期投資はそのヒロミヤ住建が全て負担してのスタート、20 年で設定された認定計画の有効期間(建蔽率や占用物件特例などの適用は除外)内での投資回収(15 年目標)を図っている。

Q Park-PFI を導入したことにより、どれくらい県の負担が減り、どのくらい収益があるのか?

A 令和 3 年度においては使用料収入 294,057 円を公園管理予算に充当することができた。

Q Park-PFI を導入するにあたり問題点や課題等があったか?

A 指定管理者、ヒロミヤ住建との協議や調整を幾度となく実施し円滑なスタートアップを図った。市内から車で約 10 分の好立地ながら、観音山ファミリーパークへ直接アクセスする公共交通機関がないことが現状の課題点。

Q 公園を利用される方の利便性や楽しさ等、カフェがオープンした後に変化はあったか？

A カフェスペースを利用して昼食や休憩をとっているご家族連れの来場者の姿を多く目にするようになった。ヒュッグ・タイムズが独自で開催している音楽イベントを目的に来場されている方々もあり、相応の効果を発揮できていると捉えている。

Q カフェがオープンしたことにより、公園利用人数に変化はあったか？

A 折悪くコロナ禍でのオープンとなった為、一概に比較することが難しいが、年間 32 万人の来場者数となっている。(約 7 割は高崎市民) 広域公園としてはこの来場者数は少ない方であり、より多くの来場を促せるよう Park-PFI の効果を今後も突き詰めていきたい。

Q 公園内施設ネーミングライツはどれほどの金額で締結しているか？

A カローラ高崎バーベキュー広場が 10 年で 66 万円/年。フェニックス自然の森が 5 年で 55 万円/年となっている。

### ◎ P-PFI (HYGGE TIMES) 視察:

フードキッチン 1 棟、レストラン小屋 1 棟 (冷暖房完備)、休憩スペースなどで、テイクアウトの軽食を提供中。(園内には、日除け場所が少ないことから、休憩スペースとしても利用できるようにされている。)



↑ 北欧情緒ある外観



↑ 寛ぎの空間には暖炉が



↑ 園内を見渡せるテラス席も完備



↑ 軽食を提供するキッチン棟



↑ 独自の音楽イベント



↑ 県産材を用いた建造物群



## ◎ 園内視察:

ルート: 水と花の広場 → クラフト工房 → バーベキュー広場 … 抜粋



↑ ローラー滑り台



↑ 噴水広場



↑ ふわふわドーム



↑ 定番のブランコや滑り台



↑ ハンモックのぼり



↑ 足つぼ健康ゾーン



↑ 工房内にはワークスペースや売店も



↑ 皆で楽しむ BBQ コーナー



↑ こだわりのピザ窯

## ■ 行政視察 所感:

◎ 子供たちからおとなまで、家族連れで賑わいを見せる、様々なレクリエーション施設が設けられた公園の存在は、「憩い」や「癒し」を与えるリフレッシュ空間であると同時に、過密や過疎といったそれぞれの自治体特性に関わることもない「暮らし」の中における必須のものと実感をした。

◎ それゆえに地域に溶け込み、親しまれるための「知恵」と「工夫」、「自由な発想」が大切なポイントとなることは言うまでもなく、それと同時に、高い「質」が常に求められる、ということ改めて考えさせられました。

## ■ 視察成果による当局への提言または要望等：

前橋市の県立敷島公園での成功事例に次いで、公園利用者の利便性向上に寄与する収益施設を「公募」で選定する独自の公募設置管理制度（Park PFI）を活用し、実際に収益効果を実現させた当該成功事例の成果を高く評価したい。

その一方で「初期投資が大きく回収が難しいとして、参加者数がそもそも少なかった」、「対象となる公園やエリアに関する行政側のコンセプトが不透明（アイデア募集が幅広に過ぎる）であった」、「指定管理者と Park-PFI 事業者が同一の方がスケールメリットは大きいのでは、という疑問もあった」等、相応の課題があったであろうことを同時に窺い知ることもできたことは、特筆すべき留意事項であると考えます。

いずれにせよ地域特性やその規模も異なるため、一概に桐生市での早期導入を拙速に促すものではないが、今後の桐生市における公園活用検討にあたっての参考事例のひとつとして、鋭意の研究を図って頂くことを要望したい。



↑ 観音山ファミリーパーク 駐車場入口付近にて

以上